

コリント人への手紙第Ⅱ 第13章 13節

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。」

ベランダに置かれた一鉢の薔薇は様々なドラマを見せてくれる。蕾が見え始めた頃には、一つ二つの蕾が支えている小枝の根元から食いちぎられた。昆虫が花の香に誘われ、小枝の中を流れる樹液を食べようとしたのだろうか。せっかくの蕾が咲かずに折れた。

その後、少し時間が経過したところで、小枝から一つの蕾が見え始めた。また、花色の変化が楽しめることに期待している。そうしたうちに、ある日蕾が一つの幹に三つ見え、それぞれが成長している。最初の蕾はやや大きめに成長しているが、他の二つの蕾も順調に育っている。早速小さな網目状のシートで覆う。

三輪の花が最後まで咲ききることができるよう願う。一度は虫に食いちぎられたところに三輪の花の芽が生まれたことは素晴らしく、楽しみだ。特に、蕾が三つあるのは、見る者に特別な思いを与える。やがて、三輪とも咲き始め、それぞれの花が、咲かせてくれるお方を讃えるように、香りを放ち、鮮やかな色をつけ、そして、ひかりの方に花びらを開くのが楽しみだ。